序

埋蔵文化財調査センター長
五味　武臣

2003 年度の6号に引き続き、センターの 2004 年度活動報告、センター職員の調査研究の成果を内容とした「金沢大学文化財学研究」7号を刊行します。

当センターは 1997 年に学内共同利用施設として発足し、以来、全学のご協力、ご支援、ご理解をいただきながら金沢大学角間キャンパス（II 期移転用地）、宝町キャンパスの医学部及び附属病院、鶴間キャンパス、東兼六養護学校などにおいて調査研究を実施してきました。各キャンパスでの発掘によって、古代から近世、近現代にわたる遺構・厖大な量の遺物（文化財）を得ましたが、未だ新たな発掘調査も宝町キャンパスで進行しています。

当センターの文化財調査はこの発掘調査をもって完了したわけではありません。今後、これら出土した文化財の復元・整理分類、実測図作成、写真撮影、原稿執筆など報告書作成と遺構・遺物の保存・活用方策をたてるといった重要な業務が残されています。この業務を鋭意遂行中ですが、近年の社会情勢の急激な変化や法人化によって、遺跡の現地保存が困難になり、やむを得ず記録保存とせざるを得なかったり、調査研究にあたるセンター教官の削減、運営経費の節減など厳しい状況下にあります。

本号には、角間遺跡の平安時代の土師器・須恵器を研究資料とした論文を掲載致しました。7月の研究会成果を加えた、最新の研究成果です。本紀要には大学内遺跡についての報告や関連する研究成果を今後も順次掲載していく計画です。

本紀要が金沢大学における文化財に対する理解を深めるとともに地域に対する情報発信・地域貢献の一助となることを期待します。